

100年経営「老舗企業」の倒産動向調査（2024年上半期）

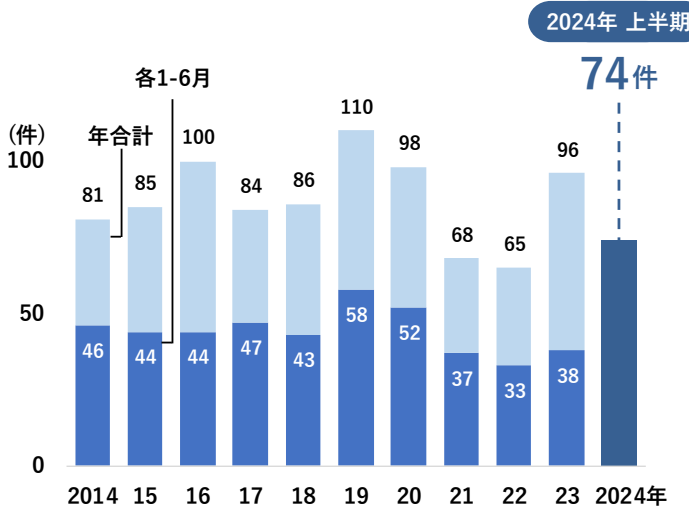
「老舗倒産」が急増、 年上半期として過去最多の74件

～ 揺らぐ「老舗の安定感」、伝統的な業種も姿を消す ～

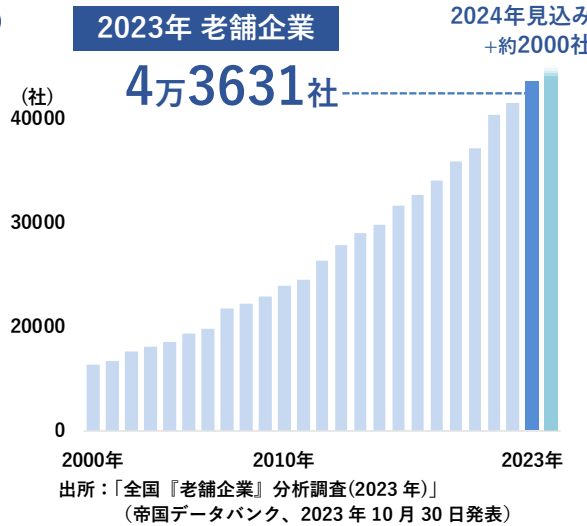
世界に誇る「ニッポンの老舗」が、のれんを下ろすケースが増えている。創業・設立から100年以上の業歴を有する「老舗企業倒産」は、2024年上半期（1-6月）に74件発生。前年同期から約2倍も増加し、年上半期としては過去最多を更新した。

日本の老舗企業は4万社以上を数え、毎年約2000社が100年経営企業として仲間入りするなど、世界のなかでも群を抜いた老舗大国だ。多くの災害や需要の変化などを乗り越え、進取の気性を持ちながら100年以上も事業を続ける老舗の強みに学ぶことは多い。しかし、激しく変化する経済情勢に飲み込まれるケースが続出しており、老舗の底力が試されている。

老舗企業倒産 年間推移



老舗企業 社数推移（2023年時点）



老舗企業倒産：法的整理(倒産)となった企業のうち、創業・設立から100年を超えている企業を指す

株式会社帝国データバンク 情報統括部長 藤井 俊

【問い合わせ先】 旭 海太郎 03-5919-9343 (直通) kaitarou.asahi@mail.tdb.co.jp

情報統括部：tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

業種別では製造業・小売業が多くを占める 清酒製造や生菓子製造など伝統的な産業も

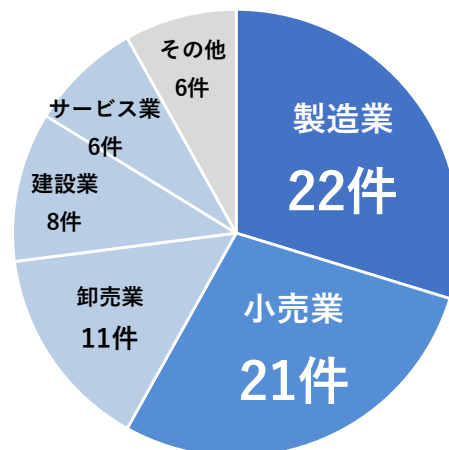
2024 年上半期 (1-6 月) に倒産した老舗企業は 74 件に達し、前年同期の 38 件から倍増した。統計として遡れる 2000 年以降において過去最多を更新するなど、記録的な件数で推移している。

業種別の内訳をみると、製造業が 22 件で最も多かった。清酒製造 (2 件) や生菓子製造 (2 件) といった日本の伝統的な産業のほか、水産加工、味噌、野菜漬物などもあった。

小売業が 2 番目に 21 件で続いた。スーパーマーケット、呉服・服地小売、百貨店など、製造業と同様に昔ながらの業種が確認された。両業種で全体の約 6 割を占めた。

また、サービス業のうち旅館業は 2 件あったが、いずれも新会社に譲渡されており、事業としては継続している。

24 年上半期 老舗倒産の業種別内訳



「老舗 = 安泰」のイメージに変調、コンプライアンス違反などによる思わぬ幕切れも

倒産件数が大幅に増加しているなか、昨年は「安泰」と思われていた老舗企業の倒産が相次いだ。白井松器械 (大阪市中央区) は 1872 年創業で業歴 150 年を有し、医療・理化学器械の製造販売業者として知名度の高い存在であったなかで、2023 年 9 月に突如として民事再生法の適用を申請。20 年以上にわたる粉飾決算が発覚したことが要因で、業界からは驚きの声が上がった。また、1900 年に創業し衣料用繊維織物の製造販売を手掛けるプロルート丸光 (大阪市中央区) は、当時東証スタンダード上場だったが、雇用調整助成金の不正受給が発覚するなど複数の疑義が生じ、最終的には会社更生法の適用を申請し、再建を図ることとなった。

長い業歴は信用を測るうえで大きな裏付けとなる一方で、このようなコンプライアンス違反も潜んでいることを見逃してはならない。その他にも、24 年上半期の老舗企業倒産 (74 件) のなかには仕入価格の上昇により収益が悪化した「物価高倒産」(14 件)、後継者不在のため事業継続の見込みが立たなくなった「後継者難倒産」(11 件) など、近年事業継続のリスクにあげられる要因による倒産が複数確認されており、老舗企業においても例外ではない。

2024 年における全体の企業倒産は 1 万件突破も視野に入る水準で増加していることを踏まえると、半数近くを小規模企業が占めている老舗企業は今後さらに厳しい局面を迎える可能性がある。

2024 年上半期 主な老舗倒産事例

惜しまれつつ幕を閉じた、業歴 160 年の食品スーパー — 株式会社三谷屋 (広島県)

1858 年 (安政 5 年) 創業の食品スーパー。広島県東部に積極的に出店し、地元産の野菜や近海の魚介類など生鮮食品を中心に展開し、地元密着型のスーパーマーケットとして親しまれていた。

近年は、エリア内の人口減少やドラッグストアなどとの競合激化により売上高はダウン、4 期連続赤字に陥っていた。不採算店舗や社有不動産の売却によってしのいでいたが、昨今の物価高騰による仕入れコストや、光熱費の上昇によって資金繰りがひっ迫。2 月 6 日に事業停止、その後 6 月 5 日に破産開始決定となった。



三谷屋の本店

野球好きなら知らぬ者はいない「TAMAZAWA」ブランド — 株式会社スポーツ玉澤 (東京都)

1910 年に創業した (株) 玉沢スポーツが前身の、野球用品販売会社。「TAMAZAWA」「玉澤」ブランドは野球関係者の間でも広く知られ、なかでも完全国産オーダーメイドのグローブは人気が根強く、アマチュアだけでなく過去にはプロ選手も使用していた。

しかし、少子化などによる野球人口の減少、国内・海外ブランドの新規参入などの影響を受け、年々業容は縮小。2022 年 8 月期の年売上高は約 9900 万円にとどまっていた。こうしたなか、2023 年 6 月に当時の代表が死去したことも重なり、2 月 7 日に破産開始決定となった。



スポーツ玉澤のグローブ

一度は復活した銘菓「葵千人」、コロナ禍に耐え切れず — 株式会社青木万年堂 (東京都)

東京都八王子で愛された老舗和菓子店。1818 年 (文政元年) に創業した旧・青木万年堂は 2003 年 6 月に破産となったなかで、銘菓「葵千人」などの復活を望む声が多く寄せられたことを受け、新会社として当社が事業を引き継ぎ継続してきた経緯がある。駅ビルやショッピングセンターへの出店など、地元を中心に幅広く親しまれた。

一度は復活を遂げたものの、新型コロナウイルスによる店舗の閉鎖・営業時間短縮などの影響が直撃。各店舗の休業を余儀なくされていた。コロナ禍の収束にともない営業を再開したものの、2023 年秋には各店舗を閉鎖し、3 月 28 日に破産開始決定となった。



青木万年堂の事務所